

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- ☐ 巻頭言…P1 ☐ 自動車リサイクル士新規講習会のお申込み期限が迫っております！！…P1
☐ 欧州における自動車の電動化に関わる動向等について …P2・P3・P4
☐ 経済産業省 新室長のご挨拶…P4 ☐ 三河港未来戦略会議で酒井代表理事が講演 …P5
☐ 触媒の模倣品にご注意ください！…P5 ☐ 2021 年度 駆動用 HV バッテリー共同出荷事業 …P6
☐ 7 月新車販売・使用済自動車発生台数 …P6 ☐ 鉄スクラップ最新情報 …P7
☐ 行事予定・お知らせ …P8 ☐ 編集後記 …P8

vol. **150**

自動車リサイクル士新規講習会のお申込み期限が迫っております！！

01

2021 年度の自動車リサイクル士新規講習会の申込期限は、2021 年 9 月 6 日（月）必着となっております。

受験会場の定員にまだ余裕もございますが、9 月 6 日（月）**必着**となっておりますので、お申込みをご検討されている皆様はお急ぎください。

今年度は、講習会を WEB で行い、修了試験は全国 8 か所の会場で実施致します。WEB での講習会は、皆様がお持ちのパソコンや、iPad などのタブレット機器、スマートフォンで、10 月 4 日（月）から修了試験日までの間、好きな時間にご覧いただけます。

（受験後も 12 月 15 日（水）までご視聴可能です。）

—修了試験会場では、十分な新型コロナウイルス感染症対策を講じます—

詳細はこちら→ <https://www.elv.or.jp/media/20/20210728-koronataisaku.pdf>

また、この自動車リサイクル士制度について、「どんな資格なの？」や、「資格を取得した方の声」などをまとめたご紹介動画を作成いたしました。

是非、ご覧いただき、社員の方の教育などとしてご活用ください。



【ご紹介動画】

■講習会詳細はこちら→ <http://www.elv.or.jp/35-87-0.html>

■ご紹介動画はこちら→ <https://youtu.be/6DkmYh5VTNQ>

【お問い合わせ先】

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 事務局（担当：京野）

■TEL:03-3519-5181 ■FAX:03-3597-5171 ■mail:jaera-homepage@elv.or.jp

巻頭言

全国적으로お盆後半より降り続く長雨の影響で各地、川の氾濫で冠水や土砂崩れなど発生しました。この巻頭言を書いている現在は当機構の皆様には直接の被害はないと聞いています。

しかし、豪雨により復旧に関わる関係者の皆様も多いことと思います。コロナ感染拡大もある中での活動ですので健康面、安全面には十分ご注意ください。

佐賀県のニュースでは、カーディーラーさんが一昨年の被害を受け、今年は置き場の嵩上げをして被害を出さずに終えたとのこと、一般のユーザーの方は高台に車を事前に移動させた等のお話で車両に関する被害は前回よりは少ないようです。

災害を想定して備える事の大切さ、人間の対応する力は素晴らしいと思います。被災地の一日も早い復興を祈っております。

〈広報部会 木村 香奈子〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
HP: <http://www.elv.or.jp/>

はじめに

欧州における電動車（ZEV、PHEV：以下、EV とする。）の普及台数はドイツ、フランスの 2 か国だけでも 2030 年頃までに 100 万台を超えるとの推計がある。これにともなって、欧州における EV 用のリチウムイオン電池の需要も 2030 年頃には、2020 年と比較して 7～8 倍に達すると見られている。

このように日本よりも早く進みつつある EV 化の流れを受けて、EU では、EV 用バッテリーの管理規定に関わる法整備（EU 電池規則）を進めている。そこでは、これまで EU 加盟国が個別に一定の裁量をもって自国法を制定する「指令」から、EU 全体で一律に同じ規制が適用される「規則」へと格上げされる予定である。

また、新グリーンディール政策のコアのひとつであるサーキュラーエコノミーの考え方に準じて、それらのバッテリーを回収してリサイクルすることの義務づけに留まらず、それらのバッテリーから回収されたりリサイクル材を一定量以上、新しく製造するバッテリーに利用することを義務付けることが検討されている。

このような資源循環を法によって強制する規制は、EU の法律とはいえ、日本を含む世界の自動車メーカー、電池メーカーにも大きな影響を及ぼすことは必須である。それは同時に、将来における EV および EV バッテリーの循環を担う、自動車解体業のビジネスにも様々な変化を及ぼすであろう。

本稿は、これらに関わる欧州の状況を報告し、今後、日本にも訪ずれるであろう自動車電動化の波に自動車解体業が対応するうえで、なんらか役に立つ情報になればと思い寄稿する次第である。

(1) 欧州における自動車電動化の背景

欧州自動車メーカーの関係者によれば、欧州における EV の普及は単なる環境影響の改善ではなく、むしろ、欧州独特の事情がその背景にあるという。

例えば、ノルウェーでは新車販売台の 8 割以上が EV となっている背景には次の理由がある。

①2025 年に実施予定の公道走行規制

ノルウェー国内は ZEV 以外、走れなくなると政府が国民に予告している。そのため、今自動車を購入する人は EV しか買わない政治的な状況にある。

②ガソリン車より EV が安い

補助金があるため、それを使うと VW Golf のガソリン車より EV の e-Golf の方が安く買える現実がある。

③以前から駐車場に電気コンセントが設置されている

ノルウェーの冬は寒く、乗車前にキャビンを温められるように、以前から駐車場にはヒーター用の電気コンセントが設置されている。このため、ガレージや駐車場で EV を充電するのが容易な環境が整っている。

④ノルウェーは水力が主電源

水力による電力は安くて余っている状態。EV にした方が CO2 排出削減にもつながる。

⑤北欧の主要都市は SDGs ランキングで上位獲得に大変熱心

欧州では主要都市の SDGs ランキングを毎年発表しており、その競争が過熱気味であるが、特に北欧の諸都市は上位獲得に熱心である。EV の利用拡大はそれに大きく貢献する。

上記⑤に示した理由で、EV の普及を促進させているのはノルウェーに限らない。次ページ【図 1 欧州都市の SDGs ランキング】からもわかるようにすでに EV の普及が顕著な北欧の都市が上位にランクインしているのがわかる。

欧州における自動車の電動化に関わる動向等について

02

公益財団法人 日本生産性本部 喜多川 和典 様 寄稿

【図1 欧州都市のSDGs ランキング】

Select a city to see its full profile.

City	Region	SDGs	Rank ↑	Score
Oslo	Northern Europe		1	74.8
Stockholm	Northern Europe		2	74.2
Helsinki	Northern Europe		3	71.3
Copenhagen	Northern Europe		4	68.7
Zurich	Western Europe		5	67.5
Lyon	Western Europe		6	64.9
Paris	Western Europe		7	64.7
Munich	Central and Eastern Europe		8	64.2
The Hague	Western Europe		9	63.7
Eindhoven	Western Europe		10	63.5
Amsterdam	Western Europe		11	63.5
Rotterdam	Western Europe		12	63.4
Luxembourg	Western Europe		13	63
Hamburg	Central and Eastern Europe		14	63
Bordeaux	Western Europe		15	62.6
Vienna	Central and Eastern Europe		16	62.5
Ljubljana	Central and Eastern Europe		17	62.5
Berlin	Central and Eastern Europe		18	62.1
London	Western Europe		19	62
Nuremburg	Central and Eastern Europe		20	61.9

(出所：SDG Index and Dashboards Report for European Cities)

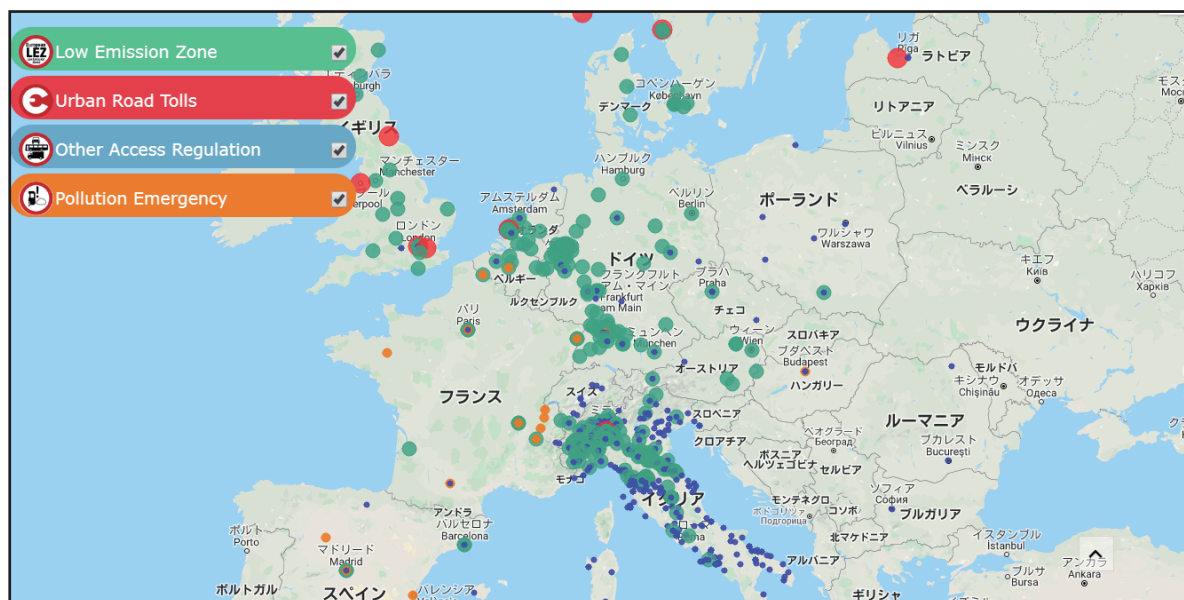
SDGs ランキングで上位に食い込むために自治体がとれる有効な手段のひとつが、都市中心部への乗用車乗り入れ規制と EV 比率の増加であるという。

乗り入れ規制の代表例にはロンドンが 2019 年 4 月から実施している中心部での「超低排出ゾーン」(ULEZ ユーレズ: Ultra Low Emission Zone)規制があるが、所定の基準を満たさない通行車両すべてに課徴金が課され、乗用車の場合、1 台 1 日につきおよそ 1,800 円である。

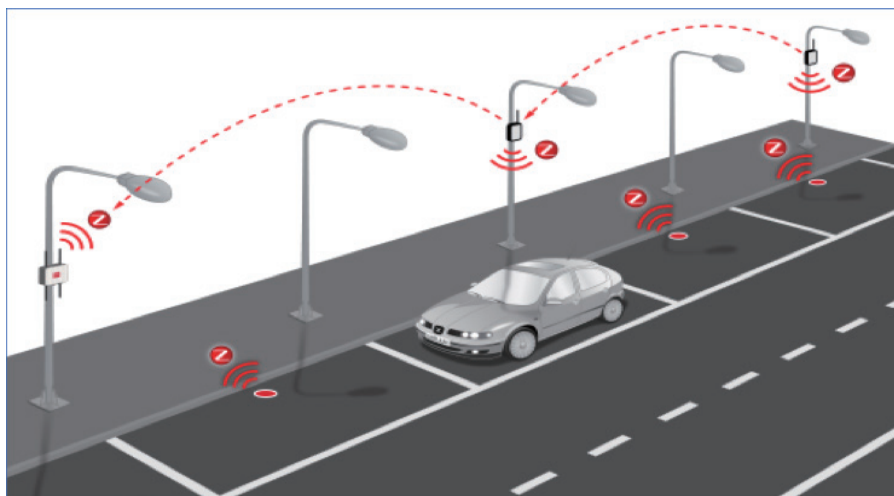
このような課徴金の支払いを避けるには、今年 10 月からは純 EV 以外の選択しか残されていない。

このような都市部への乗用車の乗り入れ規制は、ロンドン以外の欧州の都市でも広く行われており、決して珍しいことではなくなっている(図2 参照)。

【図2 欧州諸都市における乗用車の乗り入れ規制の実施エリア】



このような規制に伴って発展してきたのが、「オンストリート・パーキング&チャージシステム」である（図3参照）。これは、特にフランスの都市で拡大してきており、公共の路上を駐車スペースとして利用するが、路面に埋め込まれた IC チップと街灯の柱に取り付けた Wi-Fi の発信機により、駐車の利用状況をセンターに届けるのと同時に、ドライバーには空きスペースの所在を知らせ、駐車スペースに向けた無駄のない走行をスマートフォンなどを通して誘導する。さらにこれらの駐車スペースに EV への充電器を設置することで、EV の利用・普及を支援する環境インフラを提供する。



【図3 オンストリート・パーキングシステム】(出所：IEM SA)

これらの EV 環境整備を官民共同で進める理由は、環境問題の解決だけでなく、自治体・行政が管理する道路や公共の広場などを駐車スペース、および EV 充電場所として「資産活用」することによって、自治体の有効な収益源となるという一面もある。

それと同時に、このような都市インフラの導入は、スマートシティの推進ともなり、それによって「都市生活者の生活品質」を高め、「SDGs ランキング」の向上につながる。それは同時に、都市行政を担う自治体と政治家への社会的評価と支持率アップにもつながる利益をもたらしているのである。

次号へ続く

経済産業省 新室長のご挨拶

03



経済産業省
製造産業局自動車課
自動車リサイクル室長
かなだに あきみち
金谷 明倫 様

日本自動車リサイクル機構及び会員の皆様におかれましては、平素より適正な自動車リサイクルの推進にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。この度、令和3年7月1日付で自動車リサイクル室長を拝命しました。微力ではございますが自動車リサイクルが一層推進されるよう精励してまいります。前任者同様ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

自動車リサイクル法においては、昨年で施行15年目の節目を迎え、同年8月から今年7月まで、計8回、産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルワーキンググループ及び中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会合同会議を開催して議論を重ね、「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」を取りまとめることが出来ました。関係者の皆様には貴重なご意見やご協力に感謝申し上げます。

今後は上記報告書における様々な提言を具体化すべく、関係業界のご意見を賜りながら、解体段階等においてプラスチック等の素材回収に取り組む解体業者等に対するインセンティブを与える制度の検討等を進めて参ります。皆様方の一層のご協力とご理解をよろしくお願い致します。

最後に、貴機構会員各位の益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

三河港未来戦略会議は、1998年7月、三河港臨海部に国際的な自動車産業の複合拠点を形成しようとする「国際自動車コンプレックス計画」(豊橋市策定)に掲げられた、流通、リサイクル、コンベンションの各部門のプロジェクトを具体的に推進するため、民間企業による具体的な研究を推進するために設立された組織(事務局：東三河懇話会、(公社)東三河地域研究センター)です。(旧称：国際自動車コンプレックス研究会)

7月16日(金)に開催された研究交流会では、機構会員の吉田商会様が会議のメンバーであった縁もあり、酒井代表理事が講演会講師として登壇され、自治体や電力会社などの様々な分野の方がご出席されるなか、「自動車リサイクルの実態と制度の課題」というテーマで講演をしました。“自動車リサイクル法における解体業界の役割と現状”、“自動車リサイクル制度の現状とその課題”の2項目が主な講演内容となりました。特に、課題の1つとした“違法ヤード問題”については、自治体の方を中心に質問やご意見が多くありました。違法ヤードは、市場原理の破綻や犯罪行為の温床化、環境汚染につながり、様々な問題を生み出す原因となるため、これらを取り締まるヤード条例が制定されている自治体を今後モデルとしたいなど、多くの方が問題意識を持たれていました。

また、各分野で環境保全に取り組んでいる方が数多く出席されており、業界を超えた多角的な意見交換が飛び交いました。



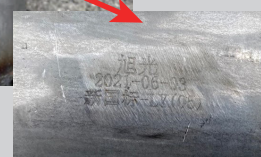
【講演会の様子】

触媒の模倣品にご注意下さい！

05

先日、会員の方から“触媒の模倣品”について情報提供がございました。正規品との判別が難しい精巧な模倣品が見つかったとのことです

セルシオ 30 系の
模倣品



■中身はセラミックで貴金属類は一切入っていないため、触媒としての価値はゼロ(中央写真)。

■写真のような印字あり。(右写真：右写真拡大部)

ノート・ティエダ
の模倣品



正規品



■中身はセラミックで貴金属類は一切入っていないため、触媒としての価値はゼロ(中央写真)。

■正規品は、丸い部分にプレートがあるが付いておらず、通常であれば汚れている触媒が新品のように綺麗。(右写真)

また、右の写真のように触媒が外され、ストレートパイプが溶接されていた例の情報提供もございました。

今回の情報については、国や関係団体などに報告しておりますので、他の事例や新たな情報等ございましたら、逐一皆様へご報告いたします。

【車体裏から撮影】→



2021 年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 7 月出荷状況と上期累計

06

【2021年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 7 月出荷状況と上期累計】

上段 7 月出荷数 下段：上期累計 【単位：個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	レクサス GS450H	クラウン HV GWS204
26	42	67	0	0	70	0	3	1
49	147	287	2	0	208	1	3	3

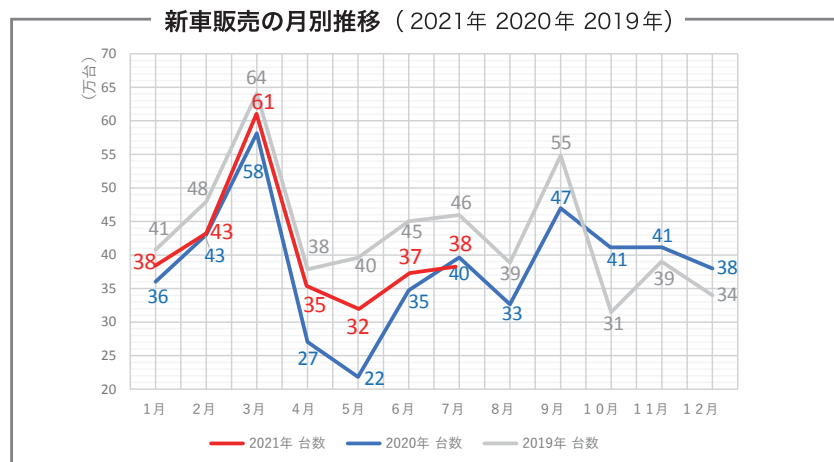
クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	カムリ HV	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A~C	合 計
1	1	0	0	0	1	0	2	188
4	3	3	0	0	1	1	15	678

□2020 年度の結果・2021 年度事業説明資料はこちら→ <http://elv.or.jp/index.php?itemid=1740>

7 月新車販売・使用済自動車発生台数

07

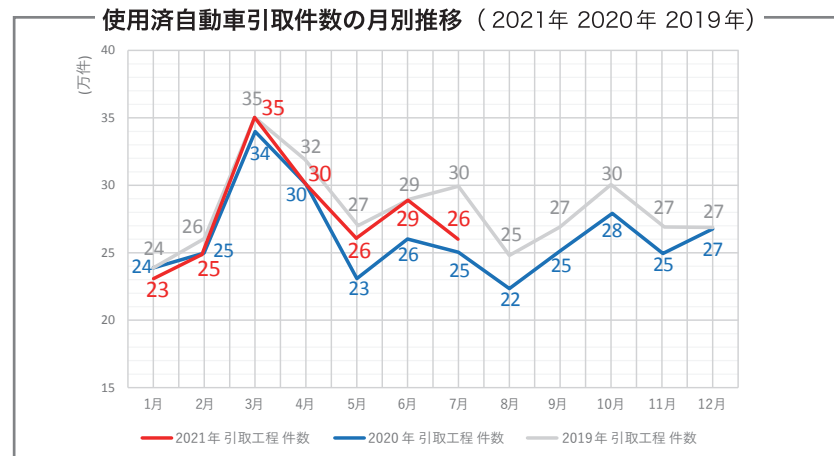
■2021 年 7 月度 新車販売台数 377,448 台 前年同月比 95.2%



過去の新車販売台数推移		
年累計	台 数	前年比(%)
2021年 (7月まで)	2,842,034	109.1
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7
2017年	5,234,165	105.3

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

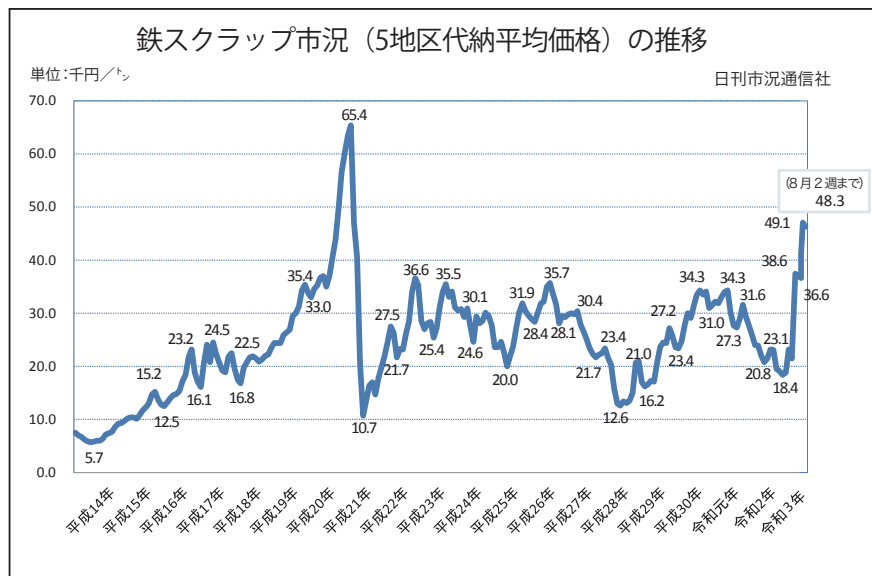
■2021 年 7 月度 使用済自動車引取（電子マニフェスト）実施状況



引取件数
261,539 件 (前年同月比 104.5%)
フロン回収工程
233,811 件 (前年同月比 102.7%)
解体工程
270,406 件 (前年同月比 103.5%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

8 月第 3 週（20 日）の鉄スクラップ動向



8 月 20 日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	48,000～49,000	軟調様子見
	南関東	49,000～49,000	軟調様子見
	浜値	46,000～47,500	軟調様子見
名古屋		47,000～48,500	値下がり
関西	大阪	50,000～51,500	軟調様子見
	姫路	50,000～50,500	軟調様子見

関東鉄源テnder 4万6646円で1万3千ト落札 前月比1,242円安、「予想より高値」の声

関東鉄源協同組合（理事長＝山下雄平ヤマシタ社長）は8月19日に8月度の鉄スクラップ共同輸出入札（テnder）を実施し、H2をFAS基準1ト平均46,646円で計13,000ト（3件）落札した。前月からは1,242円安となり、2カ月連続で下落した。船積期限は9月30日。

落札の内訳は、①47,183円（3,000ト）、②46,920円（5,000ト）、③46,050円（5,000ト）だった。このうち上位2件は47,000円前後と突出して高く、3番札と1,000円近くの開きが出た。向け先は1番と3番が台湾、2番がベトナムを予定。日本国内でスクラップの発生・流通が冴えない中で、落札商社は既契約分を割り当てたものと見られる。

テnder結果を受けて、日本のサプライヤーからは「予想よりも高値だった」（商社筋）とする声が複数出ている。山下理事長も談話で「韓国向けのH2商談価格FOB45,500円から見れば、落札の意欲が垣間見える結果だ」とした。

【関東地区】電炉値下げ散発し軟調様子見

関東市場の鉄スクラップ市況は軟調様子見の推移で8月下旬に至っている。電炉筋の夏季炉休が集中し、19日時点で5事業所の炉休日程が重なっており、値下げ改定が散発する展開となっている。9月第1週まで炉休の集中期が続く予定だ。8月20日時点のH2炉前実勢価格は48,000～49,000円中心。H2浜値は46,000～47,000円中心、高値47,500円見当と、依然として船送り数量の減少や輸出不振から電炉買値との開きがある状況だ。

【東海地区】20日からヘビー類に値下げ広がる

東京製鉄は8月20日から域内に影響が大きい田原工場の値下げ改定を実施。ドライ粉類は据え置いたがその他の全品種は500円値下げし、特級価格は陸上・海上の両方とも48,500円とした。他の地場電炉もほぼ追随しH2炉前実勢価格は47,000～48,500円中心へと下押している。その一方で新断やドライ粉は依然として発生も低調で、価格を引き下げられないメーカーが大半であることから、新断とヘビー類の格差が更に拡大している。

【関西地区】荷余り感台頭でH2中心に下落圧力

大阪地区の市場ではヘビー類の下落圧力が一段と高まっている。上級品種は湾岸も安定した集荷対応を続けており、各社とも引き合いを緩めづらいものの、中下級ヘビーは需要縮小を受けて販路が狭く輸出価格や東京製鉄各拠点の特級買値を上回った状態にあるため、余剰感台頭によって下押し圧力が一段と高まる展開にある。8月20日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が50,000～51,500円中心。姫路地区が50,000～50,500円中心。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、8月20日午前時点のもの）

行事予定

September

－ 9 月の主な行事予定－

■ 9月3日（金）

- ・ 自動車リサイクル士制度
「第1回 更新講習会」

■ 9月7日（火）

- ・ 第6回 広報部会

■ 9月14日（火）

- ・ 第3回 常任役員会

■ 9月15日（水）

- ・ J－F A R（事例集）定例会

■ 9月16日（木）～30日（木）

- ・ 日本自動車リサイクル機構
第5回景状調査

■ 9月21日（火）

- ・ 第2回ブロック長会議

※急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

お知らせ

～自動車再資源化協力機構より～

誤った個別作動処理手順により発熱・発煙事故が発生しました！

先般、エアバッグ類個別作動処理の際にエアバッグコントロールユニットに接続されているコネクタ部の配線を切断し、束ねて通電したことで車室内のハーネスが発熱・発煙し、車内の一部が焦げる事案が発生しました。

重大な人的・施設被害を引き起こす可能性があることから、必ず適正処理情報に基づいた作業を実施ください。

本件の詳細については、以下のリンク先をご参照ください。（自再協 HP 内）

→ http://www.jarp.org/pdfs/information/20210730_ab_information.pdf

編集後記

今年のお盆休みは西日本を中心とする大雨災害、またコロナ感染者も激増するという厄災に見舞われました。まるで日本が何かに祟られているかのようですが、世界に目を向けて見ればその限りではないようです。容易ならざる事態が地球規模で発生していることは、インターネットの情報から容易に伺うことが出来ます。「ビッグファイブ」をご存じでしょうか。地球は過去に生物の絶滅危機が5回ありました。これを5大絶滅事件、ビッグファイブといいます。私達が知る有名なところでは恐竜が大量絶滅した白亜紀（6600 万年前）ですが、それ以前にも三疊紀、ペルム紀、デボン紀、オルドビス紀と地球生物絶滅の危機がありました。とてつもない大昔のことで実感に乏しいかも知れませんが、地球上で起こった大事件には間違いありません。

そして今、まことしやかに 6 度目の絶滅危機が囁かれています。その引き金となっているのが人間の蛮行ともいえる環境破壊です。すでに 100 万種の動植物が絶滅の危機に瀕しています。地球はこれからどうなっていくのか、行く末が心配でなりません。

（広報部会長 永田 則男）